

令和5年度の管理地区（D地区）における捕獲の実施結果

1. 実施方法

文化財保護法に基づく現状変更許可（文化庁許可）及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく許可を得たうえで、加害個体の捕獲による被害軽減を図ることを目的として捕獲を行った。

捕獲は、9地区（精華、田原、東市、帯解、鼓阪、柳生、大柳生、東里、狭川 各地区）の管理地区（D地区）内で行った（図1）。

- ・ 期間：令和5（2023）年6月8日～令和6（2024）年1月31日
- ・ 捕獲手法：被害地周辺に箱わな、足くくりわなを設置
- ・ 捕獲頭数（上限）：全9地区で180頭
- ・ 捕獲実施者（委託）：一般社団法人 奈良県猟友会
 - 猟友会奈良支部：田原地区、精華地区、東市地区、帯解地区、鼓阪地区
 - 猟友会柳生支部：東里地区、狭川地区、大柳生地区、柳生地区

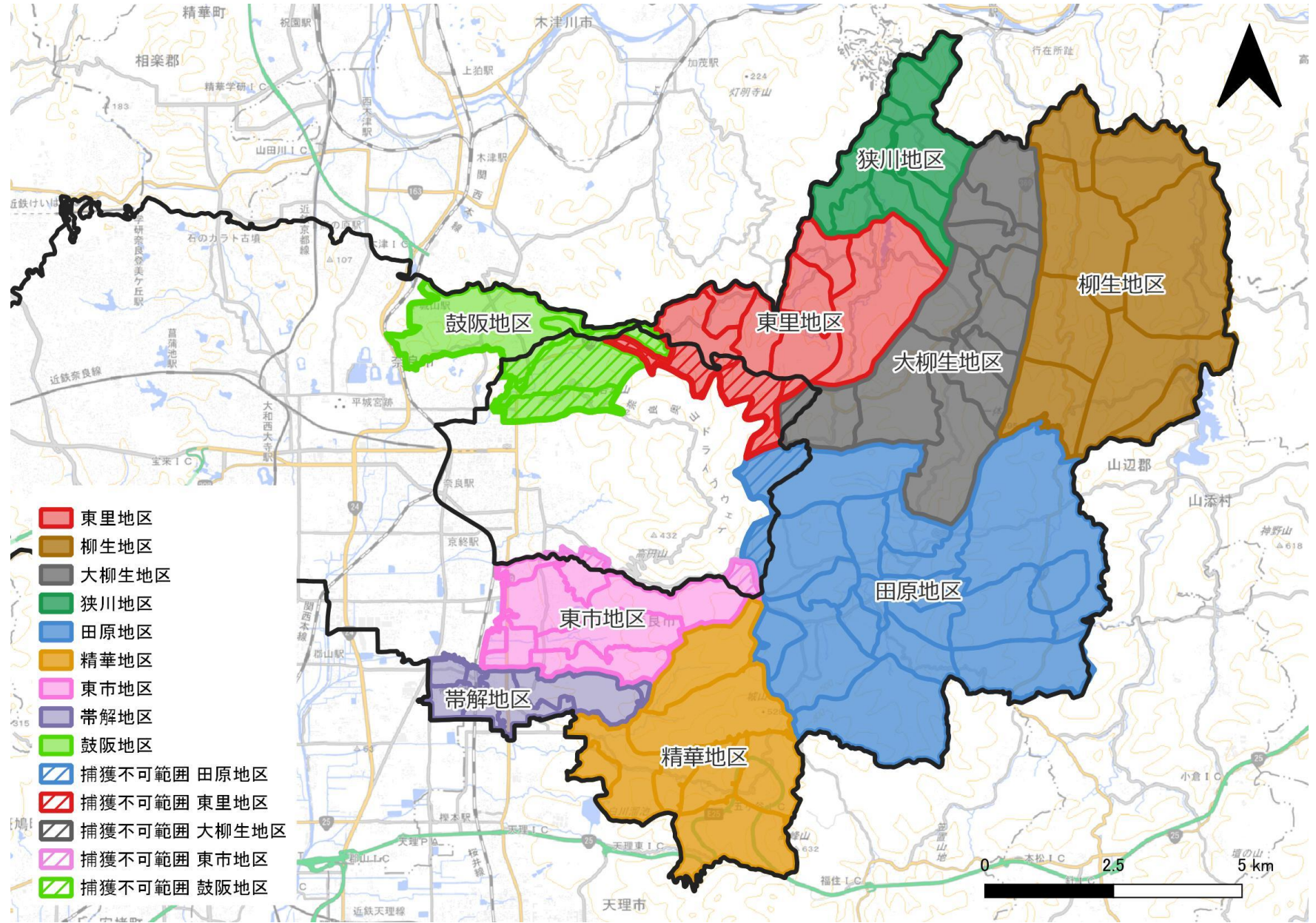


図 1 捕獲実施地区

2. 実施結果

2.1. 捕獲数

本計画における捕獲上限頭数は180頭で、メスが65頭、オスが115頭、合計180頭が捕獲された(表1)。令和6(2024)年1月31日に捕獲上限数に達した。

表1 雌雄別の捕獲頭数

| 地区 | 捕獲頭数 | | |
|-----|------|----|-----|
| | オス | メス | 計 |
| 田原 | 10 | 15 | 25 |
| 精華 | 14 | 5 | 19 |
| 東市 | 28 | 11 | 39 |
| 帯解 | 5 | 0 | 5 |
| 鼓阪 | 2 | 0 | 2 |
| 東里 | 23 | 2 | 25 |
| 柳生 | 5 | 9 | 14 |
| 大柳生 | 13 | 11 | 24 |
| 狭川 | 15 | 12 | 27 |
| 計 | 115 | 65 | 180 |

令和5(2023)年度の最初の捕獲は6月8日で、7月から10月にかけて毎月15頭以上が捕獲された。年度により捕獲開始時期が異なる(※)ものの、2018年度、2019年度は夏季(7月から9月)の捕獲頭数が少ないのに対して、2020年度以降は夏季の捕獲頭数が多い傾向にあり、昨年度は年度最多の26頭が捕獲された。今年度の8月の捕獲は19頭と一昨年度以前と同程度であった一方、10月、11月の捕獲数は例年に比べて多く、特に10月は43頭と過去の10月最多の捕獲頭数であった。冬季の捕獲頭数について、2020(令和2)年度以降は夏季の捕獲頭数が増加して早い段階で捕獲上限頭数に達するために、冬季の捕獲頭数は減少している。今年度は昨年よりも捕獲上限頭数が増加した関係でやや上限到達が遅れたが、1月31日に捕獲が終了した(図2)。

※ 捕獲開始時期 2018年度：6月上旬、2019年度：7月下旬、2020年度：6月中旬
2021年度：6月上旬、2022～2023年：5月下旬

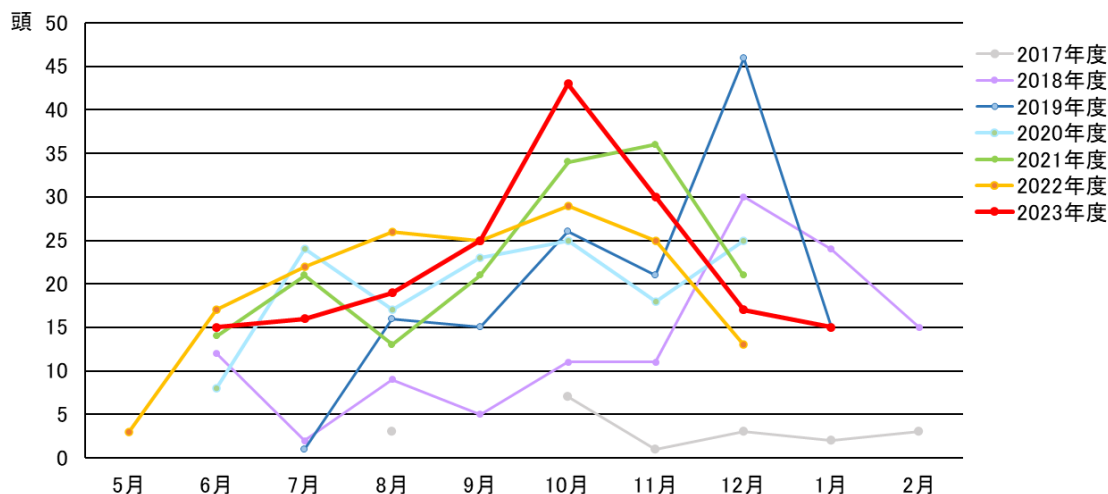


図2 月別の捕獲頭数の推移

2.2. CPUE (密度指標)

令和5(2023)年6月8日～令和6(2024)年1月31日を集計対象として、捕獲従事者から収集した捕獲作業の情報(わな管理表：最終頁「参考1」参照)からCPUE※(密度指標)を算出予定である。

参考として、令和4年度までのCPUEを表2、表3に、各わなのCPUEの推移を図3に示した。なお、わな近傍のネット柵等に絡まっていた個体が、令和3(2021)年度に2頭、令和4(2022)年度に14頭捕獲されたが、CPUEの計算からは除外した。

※ CPUE：Catch per unit effort. 単位努力量あたりの捕獲数。ニホンジカでは生息数に比例するの指標となることが知られている。CPUE=捕獲頭数/のべわな稼働日数

表2 対象期間中の箱わなのCPUE

| 年度 | 対象期間 | 捕獲数 | 設置わな数 | のべわな稼働日数 | CPUE | 備考 |
|-----|---------------------|-----|-------|----------|--------|-----|
| R4 | R4年5月27日～R4年12月15日 | 116 | 92 | 19,991 | 0.0058 | |
| R3 | R3年6月1日～R3年12月14日 | 101 | 78 | 11,038 | 0.0092 | |
| R2 | R2年6月12日～R2年12月27日 | 112 | 108 | 13,529 | 0.0083 | |
| R1 | R1年7月18日～R2年1月20日 | 92 | 70 | 11,550 | 0.0080 | |
| H30 | H30年5月31日～H31年3月11日 | 64 | 136 | 36,079 | 0.0021 | 参考値 |
| H29 | H29年7月31日～H30年3月11日 | 19 | 26 | 5,625 | 0.0034 | 参考値 |

※平成30(2018)年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載

表 3 対象期間中のくくりわなの CPUE

| 年度 | 対象期間 | 捕獲数 | 設置わな数 | のべわな稼働日数 | CPUE | 備考 |
|-----|-------------------------------|-----|-------|----------|--------|-----|
| R4 | R4 年 5 月 27 日～R4 年 12 月 15 日 | 30 | 38 | 3,208 | 0.0094 | |
| R3 | R3 年 6 月 1 日～R3 年 12 月 14 日 | 57 | 60 | 3,066 | 0.0186 | |
| R2 | R2 年 6 月 12 日～R2 年 12 月 27 日 | 28 | 54 | 3,910 | 0.0072 | |
| R1 | R1 年 7 月 18 日～R2 年 1 月 20 日 | 48 | 43 | 3,322 | 0.0144 | |
| H30 | H30 年 5 月 31 日～H31 年 3 月 11 日 | 45 | 89 | 22,767 | 0.0020 | 参考値 |

※平成 30 (2018) 年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載

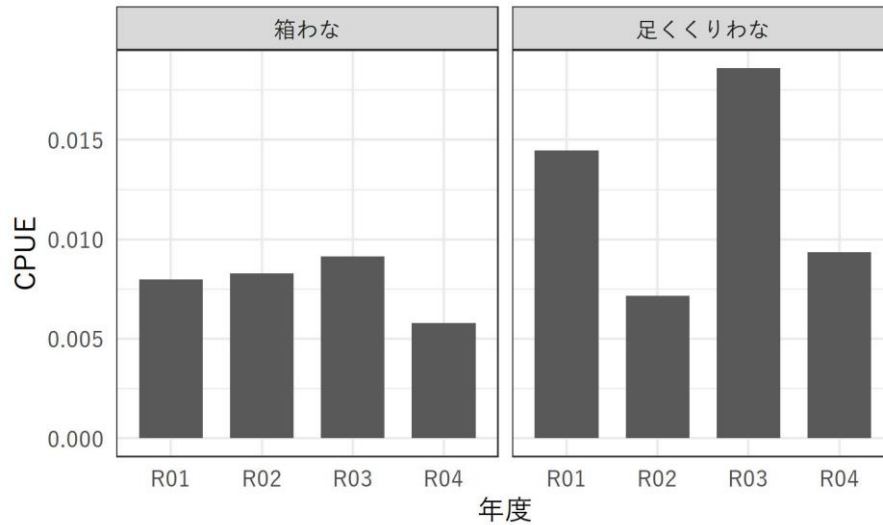


図 3 対象期間中の箱わな及びくくりわなの CPUE

令和 4 (2022) 年度の CPUE は、箱わなでは 0.0058 で、令和元 (2019) 年度から令和 3 (2021) 年度よりも低かった。くくりわなは 0.0094 で、令和 3 (2021) 年度よりも低く、令和 2 (2020) 年度と同程度の値となった。令和元 (2019) 年度以降、わな管理表の導入により、各わなの設置期間がそれ以前に比べ正確に把握できている。平成 30 (2018) 年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載した。

3. 捕獲個体調査

捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、外部計測値、体重の記録を行い、捕獲個体から下顎、生殖器を収集した。このうち、性別、齢区分、栄養状態、妊娠・泌乳状態を分析した。

また、遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を採取し、将来分析のための試料として保存した。

令和2年度版 わな管理表

| 設置位置番号 | 設置町 | わなを設置していた期間 | | わなの設置数 | | シカの捕獲 | 捕獲個体番号 | 備考 | 記入者名() |
|--------|-----|-------------|-------|--------|-------|------------|--------------|-------------|---------|
| | | 開始日 | 終了日 | 箱わな | 足くりわな | | | | |
| 1 | 誓多林 | 8/2 | 10/30 | 1 | | 10/10 | ⑤ | 10/30に6に移送 | |
| 2 | 誓多林 | 8/3 | 9/5 | | 5 | | | 9/5に2基を4へ移送 | |
| 3 | 須山 | 8/7 | 12/10 | 1 | | 9/23,12/10 | 9/23⑥,12/10⑩ | 12/10に撤去 | |
| 4 | 茗荷 | 9/5 | 10/10 | | 2 | 10/10 | ⑦ | 10/10に撤去 | |
| 5 | 誓多林 | 9/5 | 1/15 | | 3 | | | | |
| 6 | 誓多林 | 10/30 | 1/15 | 1 | | 11/7 | ⑧ | | |

設置位置番号は図面と整合するように記入する

設置わなの一部を移設した場合でも、新たな設置位置番号を設ける。
この記入例の場合は、2基移送、3基そのままなので、移設したものと、そのままのものと分けて記入する。

複数個体捕獲されたわなは、日付と捕獲個体番号を記入する

記入例

わなの移送、撤去に関する情報その他特記事項を記入